

## 多自然川づくり取り組み事例

<b>タイトル</b> : (二)住吉川の「水辺の小わざ魚道」設置とその効果について	
<b>水系/河川名</b> : (二)住吉川	<b>河川分類</b> : 都市河川
<b>河川の流域面積</b> : 11.2km <sup>2</sup>	<b>整備計画流量</b> : 260m <sup>3</sup> /s(W=1/100) <b>セグメント</b> : 不明
<b>事業</b> : 環境整備	<b>事業開始年度</b> 平成22年度
<b>目標設定</b> : 定量的	<b>段階</b> : C(モニタリング・評価時)
<b>課題・目的(主な)</b> : 縦断的連続性の保全・再生・創出	
<b>工法(主な)</b> : 魚道、落差工、帯工等の整備	
<b>配慮事項(主な)</b> : その他	

### 背景・課題、目標設定

#### <背景>

住吉川は、昭和13年の阪神大水害で甚大な被害を受け、その後、雨水を下流へ早く、安全に流すため、河道拡幅、三面張構造として河川改修を行った。また、勾配がきついことから多くの落差工が設置された。その結果、落差工により生態系が分断され、水生生物が非常に遡上しにくい河川となった。そのため、住吉川で自然再生を行っている地域団体から兵庫県神戸土木事務所に「生物が住みやすい川にして欲しい」という要望があり、地域団体と県土木事務所が連携し、「住吉川・川づくりの会」をH22年に発足した。川づくりの会では、近隣の同じ都市河川で多くのアユが生息していることから「アユが棲みやすい川づくり」を目標に、魚道づくりの検討を開始した。

#### <目標>

アユの遡上阻害となる落差工を解消し、アユが棲みやすい川づくりを目指す

### 取り組み内容・対策例

#### ○役割分担

地域団体・・・アユの遡上・生息状況等調査  
 県土木事務所・・・魚道整備

#### ○整備箇所

遡上調査により判明した阻害要因である  
 落差70cm以上の落差工12基で魚道を整備

川づくりの会において、以下の条件のもと魚道形式を検討

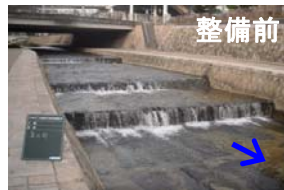
- ・アユ以外の生物の遡上も可能
- ・低コスト
- ・短期間での施工が可能



「水辺の小わざ魚道」を採用



「水辺の小わざ」の執筆者  
 浜野教授(徳島大学)による  
 現場指導



整備前



整備後

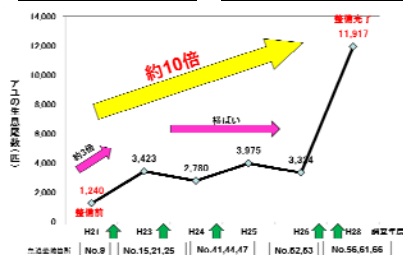
水辺の小わざ魚道・・・天然石を並べ、小さなプールを連続的に設ける

### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

#### <整備効果>

#### ①アユの生息尾数の増加

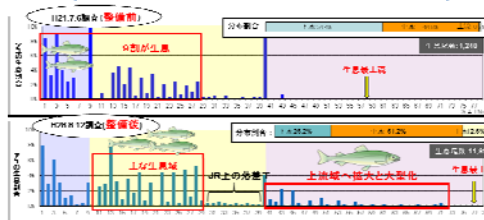
整備前1,240匹→整備後11,917匹(約10倍)



#### ②生息区間の上流域への拡大

生息分布: 中上流域45%→74%

生息密度の低い上流域において  
 ・アユの大型化 ・縄張り形成を確認



#### ②生息環境の改善

魚道内のプールを  
 生息空間・餌場として利用

#### ○今後の対応方針

H28年度の調査結果が  
 魚道整備による効果か  
 を判断するため、引き続  
 き調査を実施

### 備考

問い合わせ先 兵庫県県土整備部土木局総合治水課

電話番号 078-362-9261